



地元で開かれた祭りでも、バンドメンバーと自作曲を熱唱する浦野さん(右から2人目)

—大阪府高槻市の市立桂園小で6日

## 「臆病」変えた音楽に感謝

個性まひの障害がある大阪府高槻市の浦野健さん(42)をリーダーとする「URANO BAND」が結成20周年を迎えた。不自由な体や偏見に思い悩みながら、悔しさを自分らしく生きる決意を曲で表現し続けてきた浦野さんは「臆病だった自分を変えてくれた音楽仲間」に感謝したいと話す。

生後半年で脳性まひと診断された。スムーズに話せず、手足が不自由なため、ずっと車椅子生活を送る。

音楽にのめり込んだのは中学時代。長瀬剛さんの「乾杯」など人生の応

援歌に胸打たれ「自分も音楽を作りたい」と、詩を書きためた。音楽イベントなどで自作曲を歌っ

## 大阪の脳性まひ男性 バンド 結成20年

初めて作った曲は「同じ人間なもの」。

「それ以来、曲調は自分をさげすんでいるのでは、と怖くなった。その思いを曲にした」。月岡さんは「ストリートな歌詞と美しいメロディーが特長。曲に込めたメッセージや、浦野さんがパワフルに歌う姿にファンも

「なせ同じ人間なのにさげすまされて生きてゆくのか なせ冷たい視線におびえ生きてゆかなければと そんな気持ちは

多い」と話す。11月4日には20周年記念ライブを聞く予定だ。浦野さんは「これからも人の心に寄り添える曲を作っていきたい」と話している。

【加藤佑輔、写真も】